

令和３年度 豊田市環境審議会 第１回専門部会（自然共生社会） 会議録

【日時】 令和３年６月２３日（水）午後１時３０分から３時３０分

【場所】 豊田市役所 元城庁舎西館３階 大会議室

【出席者（部会長以下、五十音順）】

部会長 増田 理子 （名古屋工業大学 社会工学専攻 教授）
大熊 千晶 （日本野鳥の会）
篠田 陽作 （名古屋短期大学 名古屋経営短期大学子ども科 講師）
島田 知彦 （愛知教育大学 教育学部理科講座 准教授）
山内 徹 （市民公募）
渡部 教行 （豊田市自然愛護協会 会長）
（事務局）環境政策課 塩谷課長、山内副課長、深見担当長 ほか

【欠席者】 なし

【傍聴人】 なし

【次第】 1 環境政策課長挨拶
2 部会長挨拶
3 委員挨拶
4 議題
（１）豊田市環境基本計画中間見直しについて（協議）
（２）環境基本計画の自然共生社会における前年度取組について（協議）
5 その他
豊田市環境審議会及び専門部会の開催スケジュールについて（報告）

1 部会長挨拶

2 部会長挨拶

3 委員挨拶

4 議題

(1) 豊田市環境基本計画中間見直しについて（協議）

(2) 環境基本計画の自然共生社会における前年度取組について（協議）

部会長	資料について事務局から説明をお願いします。
事務局	（豊田市環境基本計画施策管理シート等配布資料説明）
事務局	【中間見直しの考え方】 自然共生社会は長期的視点で考えていく必要がある。基本的には後期計画の施策については前期計画の内容を継続していきたい。 前期計画の実績を概観し、やはり変えていく必要があるなどの意見があれば、中間見直しもしくは次回改定の際に盛り込むなどを検討したい。
事務局	【まちの状態指標】 2020 年度に実施した市民（事業者）アンケート結果を反映している。数値が下がっている箇所については、2020 年の新型コロナウイルス感染症の影響があるため、下降傾向とはとらえず、横ばいもしくは上昇というように評価したい。
事務局	施策全体として、新型コロナウイルス感染症の影響はあるが、おおむね順調と評価したい。 昨年度の審議会の意見に対する回答も含めて施策管理シートの内容を説明していく。
事務局	【施策 2.1】 豊田市自然観察の森における講座の受講者数については新型コロナウイルス感染症の影響が出ている。 自然観察の森におけるプログラムについては、現在高学年向けの基幹プログラム（授業で取り上げるプログラム）を計画している。地域資源の活用については学習指導要領にも盛り込まれ、学校からも求められている。 また昨年度本会議での意見で様々な切り口でのプログラムが必要などの意見があった。今回、今年度のイベントカレンダーや教育単元に即したプログラムなどの資料を提示した。確認いただき不足等あれば意見をお願いしたい。
事務局	【施策 2.2】 成果指標に関しては順調という評価をしたい。 ただし、希少種モニタリング調査は現在進行中であるが、昨年度からの指摘に対する具体的案がない状態。 現在標本を順次整備していく中で活用も検討している。昨年度図書館で初めて標本展を実施した。今年度も美術館で標本展の実施を予定している。
事務局	【施策 2.3】 資料の訂正：（成果指標）生物多様性保全に関する活動団体：29 団体

	→33 団体（水辺愛護会 13→17 団体） 豊田市にはラムサール条約の湿地が 3 箇所ある。草刈等の管理はこれまで実施していたが、今年度以降、集水地域を中心に森林の伐採事業を実施する。今後 10 年、水質や植生などの調査を実施する。また、地元の学校と連携し、質の高い教育の展開を計画している。 上高湿地を 2021～2022 年度で実施し、恩真寺湿地、矢並湿地と整備事業を進めていく。
事務局	【施策 2.4】 資料の中の施策②・③については、順調と記載したが、「遅れ」と修正し評価したい。 順調と記載した根拠は、市街地緑化の成果指標として挙げているのが民地の壁面緑化や屋上緑化に対する補助金事業の件数となっていることによる。補助件数に左右されることに加え、現在の社会情勢では壁面・屋上緑化はやや流行からは外れている。現状では施策を評価するために適した指標ではなかったのではないかと考える。 ただし、都市緑化については、「豊田市緑の基本計画」に基づいて緑地・公園整備が実施されている。豊田市の都市計画区域の緑被率は低くない。維持を前提に都市緑化は進められている。しかし、中心市街地に関しては緑被率が比較的低く、20%まで上げるべく公園整備が進んでいる。
事務局	【施策 2.5】 概ね順調と評価したい。マッチング件数は今年度 4 件については環境政策課でのマッチング成立分のみ。山間地域のマッチング事業を担うおいでんさんそんセンターでは 26 件ほど実施されている。今後も地元地域の要望などを聞きながら進めていきたい。
部会長	資料 2-1 豊田市環境基本計画進捗管理シートに対して意見をお願いしたい。
委員	達成状況の指標の中、市内で発見された希少種の種数について、2019 年及び 2020 年で括弧書きになっているのはなぜか。
事務局	2019 年度から希少種モニタリング調査を進めており、4 年（2023 年度まで）で全域をカバーするもの。2020 年度までの市内で確認された延べ種数を掲載している。
委員	基準年度の種数（413 種）とは単純に比較ができないということか。
事務局	前回調査を踏まえている部分もあるが、単純には比較できない。
委員	健全化に向かっている人工林の値は、間伐面積のことか。
事務局	その通りである。
部会長	施策の評価として、例えば施策の柱 2.1 について、各施策 8 事業あるにも関わらず、2 施策（事業）で評価するのはなぜか。
事務局	確かに、各事業の評価が、施策の評価として直結している箇所とそうでない箇所とある。なぜこのような立て付けになっているか、説明することが難しい。
部会長	次に各施策の評価に移る。まず【2.1】について意見交換をお願いしたい。
委員	自然観察の森での受講者数のみで施策の評価をするのが適当か。この施策の柱を推進するためには、自然観察の森周辺だけではなく、豊田市全域での取組を進めていく必要があると考える。
事務局	実態としては、事業管理シートにあるように、例えばとよた森林学校、

	矢作川研究所、支所などのように豊田市全域で自然に触れ合う体験講座を実施している。それぞれがそれぞれの趣旨（地域振興など）を持って実施されているのが現状ではあるため、すべてを把握することは難しいが、検討していきたいと思う。
委員	事務局の説明のように結構進んでいることと思う。豊田市の取組が遅れているわけではないと思っているが、成果指標の表現の仕方が、誤解を与えうる。
部会長	成果指標（の表現）については検討する必要がある。
委員	出前講座の参加者数は自然観察の森だけか。水生生物調査は入っているか。
事務局	自然観察の森の出前講座の参加者数だけであり、水生生物調査は成果指標には反映していない。
委員	成果指標の目標達成状況において、（新型コロナウイルス感染症の影響という）根拠の説明に関しては理解できるが、数値が半減して順調というのはおかしいので「評価不能」「評価しない」という表記の方が望ましいと考えるがどうか。
事務局	他の社会（分野）と整合を取りながら検討したい。
部会長	次に【2.2】について意見ををお願いしたい。
委員	希少種のモニタリング調査について、アウトプットの部分が未だ見えていないのは問題。基礎資料の蓄積はできているが、蓄積した資料が市民の見える形になっていない。そもそも豊田市の希少種のリストも出ていない。 事業管理シートの記載の中、生物多様性の人材育成に活用したいというのは具体的にどういった施策が進められているのか。今年の方針などがあれば聞きたい。
事務局	データの蓄積はあるが、アウトプット及びその展開について、良い案が見出せていないのが実情である。委員、有識者に意見をいただきながら、方向性を検討していきたい。
委員	委員としてアイデアを出していきたいと思っている。アウトプットがない状態だともったいないと思っている。
委員	（前年度環境審議会専門部会での意見について）「民間組織を作った方がいい」という記載があるが、民間団体である自然愛護協会などは行政が作ったものではなく、行政が組織を作るというのは違うのではと思っている。例えば、名古屋市の行政組織である生物多様性センターのように、行政は責任をもってデータの蓄積をすべきである。 豊田市に博物館ができるが、歴史だけでなく自然分野も入ると聞いている。データの蓄積などは博物館の自然分野調査機関（学芸員の配置など）を充実させ、当該組織が責任をもって行うことが必要だと考える。
事務局	データ管理の体制は向上させようと進めている。標本の登録なども進めていく。 蓄積したデータのアウトプットの方法、活用に関しては、意見をいただきたい。
委員	アウトプットに関しては、レッドデータブック等の方法もあるが、少なくとも今年発見した希少種の内訳などはあるといいかと思う。
事務局	現在、毎年発行している環境報告書にはレッドデータの情報が載っているが、内容が大まかで、より詳細を載せるべきではと考えている。

	環境報告書も含めて、情報の出し方を今後検討していきたいと思っている。
委員	成果指標の目標達成状況の中、環境学習施設を利用した小学生の生物多様性の理解度は何をもって測っているか。
事務局	自然観察の森で実施した学校を対象にした環境学習施設見学の引率教員へのアンケートの結果である。
委員	「生物多様性について理解が深まりましたか」という質問は難しい。実態として 100%という結果はありえないのでは。アンケートの内容をもう少し検討する必要がある。
事務局	今後アンケートの内容を検討していきたい。
委員	施策の「環境教育・環境学習の充実」の箇所で、「自然の解説」に関して人材を育成できているか。 学習の機会を充実させるために、人材を育成することを検討すべき。
事務局	自然観察の森のボランティア講座で養成している。 直結した回答にはならないが、高学年基幹プログラムの検討に際して、講師の確保が課題になる。これに向けた森や川のボランティアに関して人材育成をしていきたいというイメージはある。
委員	今の時代、自然分野に関して参加しようとする人材が少ない。できるだけ行政の方でも施策を講じてほしい。
事務局	豊田市はボランティア活動が盛んであるが、このような中から声かけをする、もしくは土木学会などで講師派遣をしているなど聞いているが、このような情報を収集しながら、講師の確保をしていきたいと思っている。 次回の専門部会までに（進捗状況の判断理由の箇所の）人材育成に関する記載については表現を見直したものを提示したい。
委員	自然観察の森のプログラムでは小学校を対象にしており、子どもを連れていく施設になっている。大人に対する講座やプログラムが必要では。時間があれば自然観察の森の講座に参加したいが、子ども向け（親子）ばかりで参加しにくい。 自然観察の森でも（エコットのように）インタープリターの養成講座を実施して、継続性のある人材育成を検討していくべき。
事務局	小学校の低学年向け及びその親子向けが多いということは、課題として認識している。 これに対して、自然観察の森との検討会議では高学年向け基幹プログラムを検討してきたが、併せて大人向けも検討していきたいと話合っていた。今後も改善策を考えていきたい。
委員	豊田市の人口に見合ったリーダーが足りない、熟度が低い。 例えば春日井市では現在人材があふれている。自然に組織が生まれ自主的に進められている。 豊田市も 20 年前には人材育成が盛んだったが、現在は勢いが減っているように見える。人材育成は市民を中心にして進めていく必要がある。 もう一度、リーダーになるような人材を育てていくことに力を入れてほしい。自分たちで取り組みたいと思う人材を育てることが必要。
事務局	森林ボランティアが増えている状況をモデルに、自然の解説に関する分野の人材育成を検討したい。
部会長	次に【2.3】について意見ををお願いしたい。

部会長	生物多様性保全に関する活動団体として、「水辺愛護会」が増えているのは何か理由があるか。
事務局	豊田市の地域振興施策の中でわくわく事業という事業があり、既に地域団体として活動していた。これに対し、河川課所管の水辺愛護会への団体登録を紹介したところ、4団体が登録に至った。
委員	人材が潜在的にいるということがわかる。
委員	これら団体（生物多様性保全に関する活動団体）の取組をもう少し広報してはどうか。
事務局	今後検討したい。
部会長	次に【2.4】について意見ををお願いしたい。
委員	（健全な人工林づくりの推進について）愛知県の面積を考えても、豊田市の面積は大きな割合を占めているため、豊田市域での取組はかなり重要な要素となっていると思われる。これに対して少し遅れ気味というのは何か原因があるか。
事務局	1200ha のうち 600ha を県の予算で実施しているが、民地のとりまとめは全て市で実施している。調整など進行具合や予算の関係で伸び悩みはある。
部会長	愛知県全域的に間伐事業は遅れている。
事務局	森林整備においては予算状況よりも、森林作業員の数が少ないことが大いに影響している。人材確保が課題となっている。
部会長	次に【2.5】について意見ををお願いしたい。
委員	環境は他分野・地域との調整等があり、やりにくさがあると思われるが、頑張っていたきたい。
事務局	企業の CSR 活動などでニーズがあることは認識している。おいでんさんそんセンターと連携し実施に至れるよう努力したい。例えば集落の林道などの草刈のマッチングなども実際ある。
部会長	全体を通して意見などはあるか。
委員	今回配ったチラシ（委員関連団体主催のイベントチラシ）の中のイベントでは、テーマや趣旨に合わせて参加資格を絞って募集している。的を絞って実施することにより、市民の自主的な活動へと広がっていく。 豊田市は人口も多く市域も広いため、施策の的を絞って実施すると（活動の広がりや人材育成など）うまくいくのでは。 農業や林業などからでも突破口があると思う。生涯学習センター（交流館）を拠点に進めてもいいのでは。
事務局	実態として環境政策課の把握していないところで、すでに地域の中で活動がされているということはわかっている。この情報をどのようにつかむかが課題であり、情報の整理が必要である。
委員	既に活動している団体の自主的な活動をさらに盛り上げるには、優秀な講師が必要で、これら講師を養成することが必要になる。
部会長	この場で話しきれなかったことなど意見があればメールなどで事務局に提出してほしい。 人材育成とデータの蓄積について幅広く意見をいただいた。引き続き議論していきたいと思う。

3 その他

- ・豊田市環境審議会及び専門部会の開催スケジュールについて（報告）

